

# 父の日にバラを

## 神奈川県・JA湘南 美しさを意識し出荷

【神奈川県・湘南】6月16日の「父の日」に向け、平塚市内でバラの出荷が最盛を迎えている。同市は「父の日」にバラを贈る習慣を全国に広めた発祥地で知られ、県内トップクラスの生産量を誇る。JA湘南バラ部会では今シーズン、7人が栽培に励む。

一部会長は、16坪の温室で赤い「アマダ」、鮮やかなピンクの「ブロッサムピンク」、花弁が複雑に重なり合ったベージュの「ウエスタミンスターアビー」など11品種を栽培。年間10万本を都内の市場に出荷する。ヒートポンプと循環扇で室内の温・湿度を調整し、病害虫の発生を予防している。

劣化によるロスを抑えようと、出荷時の荷姿を工夫。30本ずつ束にした長さ60センチと40センチのバラを、出荷用のおけに互い違いに入れる。隙間をなくし、輸送中に花同士がこすれるのを防ぐ。「傷が少なく見た目が良い」と市場や小売店から好評で、指名注文も多い。



バラの出荷作業をする渋谷部会長（神奈川県平塚市で）

渋谷部会長は「お客さまの手元に届くまで美しい見た目を保てるよう、意識して出荷作業をしている。この時期は毎年出荷量が多くなるので、特に気を付きたい」と意気込みを語った。